

あかりが つくつかつかないか実験

以前に秋田県で開催された学力向上フォーラムという研修会に参加した時のお話です。

秋田県は全国の学力状況等を調査する取組が行われてから常に全国の上位を維持している県で、どのような授業がされているか是非行って見てみたいと思っていました。

最初に入ったのは小3の教室で理科の授業をしていました。多くの授業を見て回ろうと思ったのですが、その教室から離れられなくなりました。「あかりはつくつかつかないか」という授業で、子どもたちの机の上には様々なものが並べてあります。子どもたちは電気を通すかどうかを予想し理由を発表していました。「木は電気を通すと思います。だって、雷は木に落ちるからです」「銀色のアルミ箔は電気を通すと思います。理由は電池ボックスの金具は銀色だからです」「石は電気を通すと思います。石は固いから中身がギュッとつまっていて電気が伝わりやすいと思います」電気を通すと思う理由を感覚、経験や自然の中の現象から考えて多くの子が発表していました。なるほどという声が教室から聞こえます。

あるグループが、自分たちが調べたいと選んだホッチキスのしんの山を調べていました。どの子も予想は電気を通すという予想でした。私も金属だし電気を通すと思っていましたがあかりはつきません。学習のまとめは、「アルミや鉄などの金属は電気を通す」とまとめられたのですが、その班の子どもたちは不思議でしょうがない。どの子も振り返りシートに書いていました。「絶対明かりはつくと思っていたのに不思議でした」「ホッチキスのしんはプラスチックなのかな」子どもたちの頭の中には？が浮かんでいました。しかし授業はそのまま進み担任の先生が授業の最後に「次の時間は明かりのつきそうな身近な金属を集めて確かめます」と言われると、ある子どもが「先生、金属じゃないけど水を確認していいですか。だって水にぬれた手でコンセントを触ってはいけないと言われたことがあるし、雷が鳴ると危ないからプールから出るようにと言われます。水も電気が通ると思うので明かりがつくと思います」授業の最後にまた子どもの発言で驚かせられました。



鳥取に帰った後、お礼を兼ねて学校に連絡をとり、気になっていたホッチキスのしんのグループがどうなったか聞いてみました。実はグループの中の子が学校から帰り、家で調べたそうです。「しん1つならあかりはつき、しんの山の端と端をつなぐとつかないことがわかりました。電気を通さないものがしんとしんの間にあるのではないか」その子が調べたことを理科の時間にみんなに教えてくれたそうです。本当にうれしくなりました。こんな子どもたちを育てたい。秋田の3年生の子どもたちの探求心や学ぶ意欲を感じさせられました。

「身に着けたい資質や能力は1時間の授業で達成できるわけではない。積み重ねが大切である。1時間の授業を吟味し、自分で考え友達と関わり合う中で、さらに考えを深める。そして自分の学びを確認する。質の高い授業の積み重ねの大切さをどの教師も意識して、日々子どもと向き合っている」という校長先生のお話に、ぶれない学校経営の方針や教師が子どもたちと向き合う姿に多くの学びがあった出張になりました。